


秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより



平成28年9月23日  
第66号  
秋田県立秋田きらり支援学校  
地域支援部

# きらりNet

## 児童生徒の学習をICT機器で支援する



児童生徒の教育的ニーズに応じて、ICT機器を導入・活用している事例を2つ紹介します。

### 〈Windows タブレットで学習を支援する ～ 高等部生徒の事例 ～〉

手指が痛く、板書をノートに書き写すことが難しい場合、皆さんならどのように対処しますか？  
解決の一つの方法としてタブレット端末を活用し、「キーボード入力」、「カメラ撮影」、「音声入力」など、自分に合った方法で学習内容を記録することが考えられます。

世界史Aの授業では、学習手段の選択肢を広げながら、筆記の負担軽減を図る取り組みとしてタブレット端末による「キーボード入力」を行いました。生徒からは「手が痛い時に、筆記用具を持たなくても済むからすごく楽です。」という声が聞かれました。また、プリントや教科書のページをめくる動作に時間がかかっていましたが、プリントや教科書をカメラ撮影することで自分から学習に取り組みやすい環境を整える姿が見られました。

本事例は東京大学先端科学技術研究センターとソフトバンクグループ株式会社による「魔法のプロジェクト」に研究協力校として参加し、実践を行っています。

### 〈視線入力装置で学習を支援する ～ 中学部生徒の事例 ～〉

本年度から、脳性まひのために手指の動きに制限がある生徒への支援として視線入力装置を導入しました。週2時間程度、教科学習に活用しています。

これまでも視線入力装置はありましたが、大変高価で学習活動に導入することが難しいのが実情でした。2014年頃から約1万円で入手できる視線入力装置（スウェーデン Tobii 社「Eye-X Controller」等。写真下）が登場してから、対応するソフトウェアも増え、必要な人が視線入力装置を試すことができる環境が整いつつあります。



視線入力装置を使用すると、視線の動きでパソコンモニター上のカーソルを操作することができます。事例対象生徒は導入から4か月が経過し、意図的に視線を動かしながら選択し、ボタンスイッチでクリックすることに慣れてきました。今後も学習で積極的に視線入力装置の活用を図っていきます。



本事例は公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会による研究助成を頂いて実践を行っています。

詳しく知りたい方は  
お問い合わせください



# 注目!

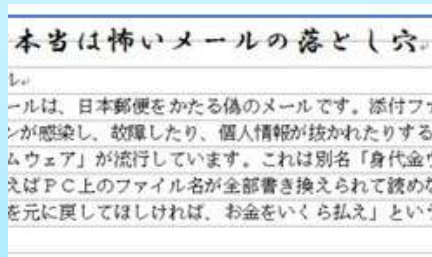
## 連載 きらりの授業 その④

# 高等部 「情報」

教科を主とする学習グループ(高等部2年生)の授業の紹介です。

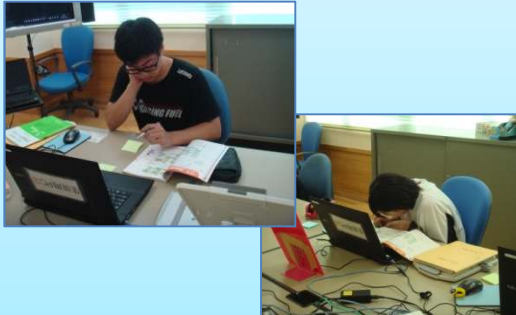
情報化社会の進展は、卒業生にとって就業の可能性、人との関わり(SNS等)、生活手段(ネット通販利用など)を広げています。同時に詐欺やSNSの炎上など、トラブルに巻き込まれる可能性も高まっています。授業では生活に密着した題材を取り上げ、できるだけ生徒自身に考えてもらうように心掛けています。また、大きなアイコンや文字を表示する方法や、マウスが苦手な場合にキーボードだけで操作する方法などを学習しています。技術を身に付けて入力スピードが上がり、ワープロ検定に挑戦・合格する生徒も出てきました。学んだことを自信にして、卒業後の生活をより豊かにして欲しいと願っております。

### 情報モラルの学習 (学習プリントより)



日本郵便を名乗る実物の詐欺メールを示したところ、誰も見破れませんでした。「家族に相談する」「消費生活センターに相談する」など、具体的な対応方法を話し合いました。

### 校内HPの製作



みんなで楽しめる校内ホームページを作ろう!と、一人10個アイデアを出しました。KJ法でまとめ、インターネットの仕組みや画像、動画の学習をしながら製作します。

### QRコードつき名刺の作製 (前期実習中に販売)

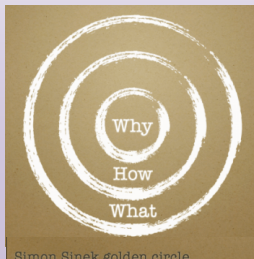


名刺デザインに、2年生が授業で作ったQRコードを採用したところ、大人気でした。スマホに取り込むと、きらりのホームページが表示されます。

### 《目的と手段を考える》

「目的」と「手段」、仕事でも授業でも良く使われる言葉です。「目的」は、その行動のゴールや達成すべきことで、「手段」は、目的や目標に到達するためのやり方や手法となります。そして「目標」は、目的達成の目安となる指標の水準や状態ということになります。授業を考えると目的やゴールは、子どもの目指す姿や身に付ける力であり、手段は、そのゴールへたどり着くための方法といえます。子どもに応じた様々な方法の中から、どのように進むかを考え、選択し、必要な教材教具を準備することになります。

下の図は、「Why(なぜ)」「How(どうやって)」「What(何を)」という視点から、物事へのアプローチの仕方を考える公式で「ゴールデンサークル」と呼ばれています。子どもたちは今自分が「何を」しているのか、さらには「どうやって」するのかを理解して学んでいます。では今、「なぜ」自分がそれをしなくてはならないのか、理解できる状況づくりがされているでしょうか。「自分のやることにどんな意味があるのか?」「どうしてそれが大切なのか?」「なぜ?」「どうやって?」「何を?」の順で授業を組み立てると目的と手段がより明確になるのではないのでしょうか。



### 教育専門監のコーナー「なぜを大切に授業づくり」

### 《なぜ、どうやって、何を》

「なぜ教師になったのですか?」  
教師になる前、教師をめざしていた頃の自分自身のことです。「あなたは教師になって何を実現したいと思っていましたか?」

なぜ教師をめざし、どのように働き、何をしようとしていたのか。

### 「WHY⇒HOW⇒WHAT」

高等部の情報の授業では、生徒が社会で役割を担うことができるように、また周囲に自分の魅力を伝えられるように、情報機器の活用や情報技術の習得を目指して学習が行われています。

自分はどんな夢を抱き、将来どのように時間を過ごすのか、そしてそのためには、今どのように学び、何を身に付けていくのか、情報や校内実習で身に付けた力を発揮できるように、子どもたちの「なぜ」を大切に授業に取り組んでいます。子どもたちの夢や豊かな生活の実現に向けて、将来の夢を大切に授業を心掛けたいものです。

文責：二階堂悟

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。

教頭 伊藤 敏博 地域支援部 佐藤 忠浩

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail: kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575

「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

